

汽車の旅

大森 海太

八月の3連休、息子一家が北海道に遊びに行くというので、ようやく解放されたジジ、ババも久しぶりの旅行。膝が痛いババは遠くまで歩けないので、乗り物を楽しむ旅に出かけることとした。

初日は新幹線で仙台まで。ホテルに荷物を置いたあと、仙石線で松島海岸へ。車内はなぜか若者たちでいっぱいだ。

瑞巖寺まで歩くのはいへんだと思っていたら、たまたま湾内一周の遊覧船があつて、これならOK。穏やかな午後の日ざしのなか、赤松が美しい大小の島々を縫って外海に出ると、さすがにうねりを覚える。

夜は懐かしのたん焼きでイッパイ。昔より肉が分厚くなったようだ。

翌日は郡山に戻り磐越西線で会津若松まで一時間ちよつと。猪苗代湖の近くを通るのだが、残念ながら見えず、その代わり右窓からの磐梯山は一幅の絵のようだ。

昼食のあとさらに磐越西線、今度は全席指定の「SLばんえつ物語」だ。汽笛を鳴らし煙を吐いて出発、ラーメンでおなじみの喜多方から阿賀野川に沿って西に下る。車内は家族連れも多いが、鉄道マニアとおぼしきお一人様がけっこうおられて皆さん首から立派なカメラをぶらさげている。

窓の左右から阿賀野川を間近に見るのは初めてだったが、中流のあたりでも川幅が広く水量豊富で、競漕用ポートコースも設けられている。

汽車は途中駅で2回小休止。多くの乗客がホームに降りて先頭の機関車を見に行く。太い給水ホースがながれ、炭水車の石炭をシャベルで落とし込んでいる。鉄夫くんたちはそばに寄って撮影に夢中だ。

その日は新潟泊まり。

3日目は信越線で両側に豊かな田んぼが広がる新潟平野を南に向かう。柏崎を過ぎると右の窓には日本海、直江津で左折して終点の上越妙高駅。

ここから北陸新幹線に乗り換えて長野、上田から高崎あたりを過ぎると、あとはいつもの関東平野。遠く秩父の山影からいつぱいの夕陽を浴びながらジジ、ババは無事家路についた。

トシをとつたら車窓を楽しむ汽車の旅も悪くない。